

○ 供御所村 グゴシヨ

狭きをいふなり。

五五所といふは言便なり一つに御供所とも書、村名はじめより字音なり。
地名未レ考……以下略

第四章 文化財・遺跡・名所

第一節 文 化 財

郷土大口の古い歴史と風土の中で生まれ、先人の尊い遺産として受けつがれてきた文化財が町内には数多くある。この中で現在県指定文化財が五件、町指定文化財が三九件あり、これらはそれぞれの機関の議を経て歴史的、美術的あるいは学術的に貴重なものとして指定をうけ、これを保護するとともに活用し、つぎの世代に伝え、新しい町づくりと郷土文化の進展をめざし、多くの努力がはらわれている。

表4-3 県指定文化財

類別	件名	出土および所蔵地	管理者	住所	指定月日
彫刻	鑄鉄地藏菩薩立像	大屋敷字寺東八〇			昭和三四・一・二六
彫刻	狛犬	余野字西浦二三二			〃三七・三・一〇
考古	古条痕文土器	〃五六外			〃四二・三・二七
彫刻	銅造千体地藏尊	小口字郷中五九ノ一			〃四四・六・三三
彫刻	聖徳太子像	〃			〃

第1節 文化財

表4-4 町指定文化財

類別	件名	出土・所蔵場所	管理者	住所	指定月日
考古	白山古墳群	小口字仁所野六一外			昭和三五・六・八
考古	善光寺塚古墳	小口字郷西三二			〃
考古	桜塚古墳	秋田字柳原三三			〃
考古	大日塚古墳	大屋敷字勝負池四ノ七			〃
彫刻	乳文鏡	豊田字西成兼四一			〃
彫刻	薬師如来立像	大屋敷字寺東八〇			〃
工芸	大鈴	小口字城屋敷一二ノ二			〃
彫刻	鰐口	余野字西浦二三二			〃
彫刻	聖観音像	小口字郷中五九ノ一			四三・九・一〇
考古	釈迦如来立像	〃			〃
考古	薬師如来像	〃			〃
考古	石棒	秋田字兔一七			四六・八・二五
考古	北替地遺跡出土の土器	秋田字中原八二			〃
考古	四神二獣鏡	秋田字北替地五〇			四八・一〇・五
考古	石劍	外坪字巾上			〃
考古		豊田字善鍬			〃

類別	件名	出土・所蔵場所	管理者	住所	指定月日
史跡	堀尾氏邸宅跡	豊田字堀尾跡			昭和四八・二〇・五
建造物	徳林寺中門	余野字寺前一〇一			〃
考古	有舌尖頭器	豊田字西河原			〃五〇・六・二
〃	〃	小口字丸			〃
〃	壺形土器	秋田字中原			〃
〃	西山神遺跡出土の土器	余野字清水			〃
民俗	湯の花の神事	小口字西山神五七			〃
考古	地藏堂遺跡出土の土器	秋田字宮前一九ノ一			〃
〃	下林遺跡出土の土器	小口字地藏堂			〃
〃	石棒	小口字下林一七ノ一			〃
〃	大御堂遺跡出土の土器	豊田字西屋敷七八			〃
〃	清水遺跡出土の土器	大屋敷字大御堂			〃
天然記念物	マメナシ	余野字清水			〃
考古	いわき塚古墳出土の副葬品	秋田字宮前一九ノ一			〃五一・八・二〇
〃	飾把手付坏	豊田字西成兼四一			〃五一・八・二五
〃	白木遺跡出土の土器	余野字浅畑			〃
		豊田字白木			〃

類別	件名	出土・所蔵場所	管理者	住所	指定月日
天然記念物	山柿	小口字城屋敷二一ノ二			昭和五二・八・七
考古	向江遺跡出土の土器と石器	小口字向江一五外			〃
彫刻	彌生系小型仿製鏡	余野字清水			〃
考古	木仏尊像	豊田字南屋敷四九			〃 五四・二・二六
天然記念物	山茶花	下小口七丁目五五			〃

以上がそれぞれ指定されている文化財であるが、これらのほか、町内には多くの遺跡・遺物などの文化財がある。

○古墳

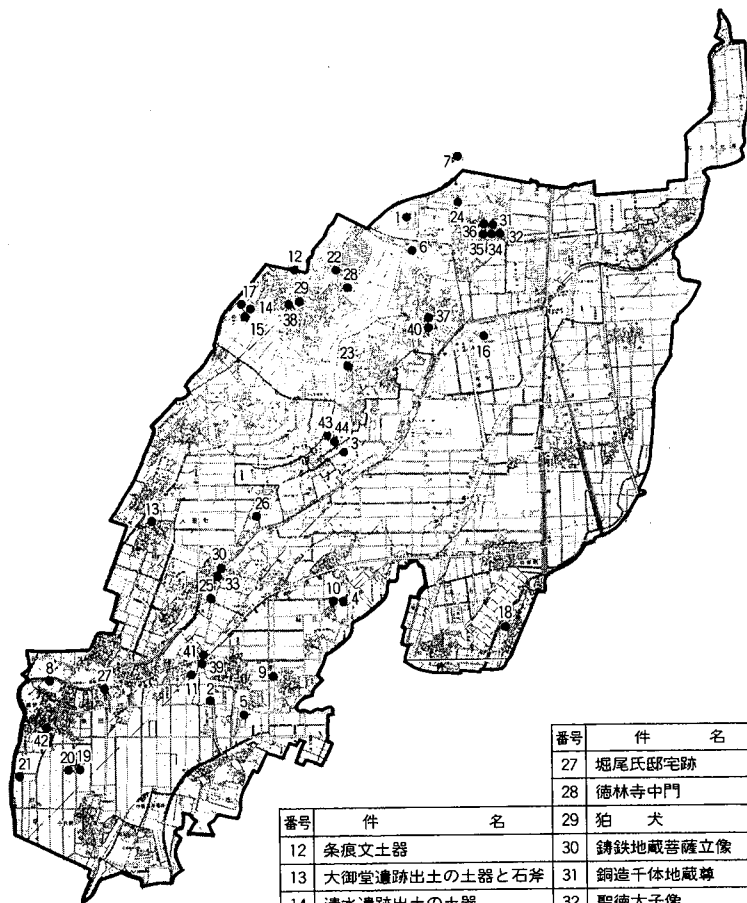
白山古墳群

大町下小口 白山神社境内

昭和三五年六月八日 町指定

下小口部落の氏神。白山神社の境内に七基の古墳があつて、群をなし、いずれも古墳時代後期のものである。

そのうち第一号古墳は最大で全長約四九米の前方後方墳とみられる。第二号、第三号、第四号墳いずれも規模は小さい。第五号墳は高さ約二・五米、直径約二〇米で墳頂には金刀比羅権現が祀られている。第六号墳は墳



番号	件名	番号	件名
1	西山神遺跡出土の石器	27	堀尾氏邸宅跡
2	有舌尖頭器	28	徳林寺中門
3	有舌尖頭器	29	狛犬
4	有舌尖頭器	30	鑄鉄地藏菩薩立像
5	北替地遺跡出土の土器	31	銅造千体地藏尊
6	地藏堂遺跡出土の土器	32	聖徳太子像
7	下林遺跡出土の土器	33	薬師如来像
8	石 棒	34	聖観音像
9	石 棒	35	釈迦如来像
10	石 棒	36	薬師如来像
11	石 剣	37	大 鈴
12	条痕文土器	38	罎 口
13	大御堂遺跡出土の土器と石斧	39	湯の花の神事
14	清水遺跡出土の土器	40	小口神社の山柵
15	弥生系小型仿製鏡	41	天神社のマメナシ
16	向江遺跡出土の石斧と土器	42	木仏尊像
17	壺形土器	43	句玉、曲玉
18	四神二獣鏡	44	山 茶 花
19	乳文鏡		
20	いわき塚古墳出土の副葬品		
21	白木遺跡出土の土器		
22	飾把手付坏		
23	白山古墳群		
24	善光寺塚古墳		
25	桜塚古墳		
26	大日塚古墳		

図4-19 大口町文化財分布図

丘が破壊され石室の一部が見られ、第七号墳は形状がはっきりしない。

善光寺塚古墳

大口町上小口

昭和三五年六月八日 町指定

上小口部落の北端に位置し、墳丘は東西径約二七米、南北約二八米、高さ約三・五米である。かつてはこの古墳の南北に各一基の古墳があり、土取りのとき須恵器や刀が出土したといわれている。古墳時代後期のもので、この地の有力な人の墓であろう。

この古墳の形状は、現在では、上田下方墳のように見られるが、古墳が築かれた時の形状とは、その後農産物の貯蔵穴などに利用されたため、変形したとも考えられる。

桜塚古墳

大口町秋田

昭和三五年六月八日 町指定

大屋敷にある寺院長松寺の西南約二〇〇米の五条川にかかる桜橋の東北にある。径約一四米、高さ二・五米の円墳で古くから頂上に桜の木があるところから、桜塚とよばれたと考えられる。

この古墳は、後期古墳と考えられる。

大日塚古墳

大口町大屋敷

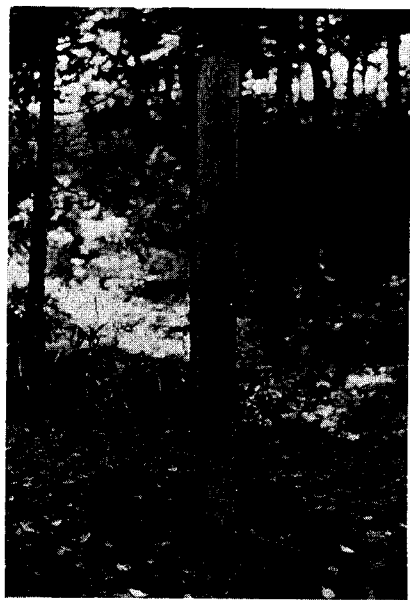


図4-20 白山古墳群(下小口地内白山神社境内)

昭和三五年六月八日 町指定

この古墳は大屋敷新田部落の中央を流れる五条川にかかっている
長念橋の西約一〇〇米の竹やぶの中にある。墳丘は、東西約二三米、
南西約二六米、高さ約三米の円墳である。

この古墳の周辺には昔、数基の古墳があつたといわれるが現在は
この一基だけである。

○建造物

徳林寺中門

大口町余野

昭和四八年一〇月五日 町指定

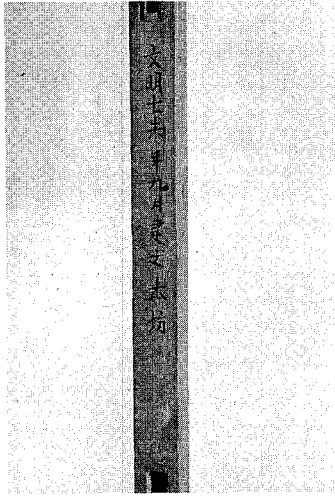


図4-22 中門棟木

中門……一間半に一

間一棟

切妻造かわ

ら葺

この中門は文明七年(一四七五)九月大久地城(小口城)主織田広
近によって建てられたものである。室町期に造られた建物として
は、この中門のほか同寺の古方丈、及び中小口の妙徳寺庫裡の二
件がある。

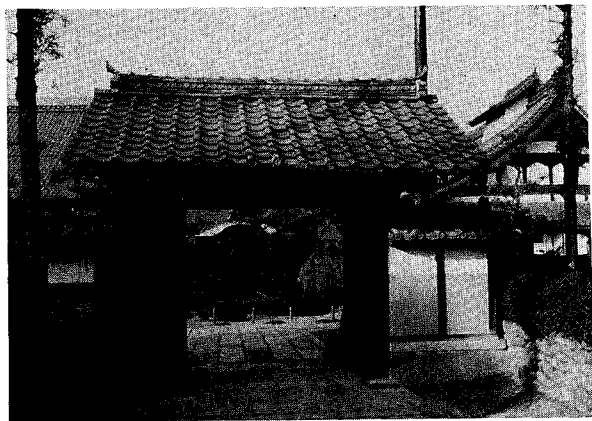


図4-21 徳林寺中門

なお、この寺は「山姥物語」で名高く、この地では有数の寺である。

○考 古

条痕文土器 昭和四二年三月一七日 県指定

昭和三二年、余野字西浦地内で出土したこの土器は、弥生式土器を特徴づけるものとして貴重なもので、土着の条痕文土器の伝統をうけついでおり、縄文より弥生文化への移行をさぐる資料として、重要な役割をもっている。

またこうした条痕文土器の全形が復元された例は、数少ないものである。

○銅 鏡

弥生系小型仿製鏡

余野字清水六三番地出土 昭和五二年八月七日 町指定

この銅鏡は、面径七・四センチで円形の小鏡で、鏡面がやや低い凹面状をし、内側には不揃いな五弧の花文がある。この種の小型仿製鏡は全国でも数少なく、なかでも東海地方では唯一のものとして、弥生時代後期の研究に貴重な資料とされている。

四神二獣鏡

外坪字巾上石亀塚出土 昭和四八年一〇月五日 町指定

石亀塚古墳から出土したこの銅鏡は、日本で作られたものであるが、県下第二位の規模をもつ犬山市青塚古墳に近い古墳から出土した意味は非常に大きい。鏡の径は、一三・三センチ、縁の厚さ三ミリで全体に磨耗がみられ、鏡背の文様は内区に六個の円座孔があり、その間に獣を配した獣文帯がある。

乳 文 鏡

豊田字西成兼四一番地出土 昭和四二年五月一六日 町指定



図4-24 大鈴(小口神社宝物)

鰐

口

余野字西浦二三番地余野神社

この鰐口は、青銅製で径二七・五センチ二個が保存されている。昭和四二年五月一六日 町指定

的に少なく貴重なものとされている。
とあり、徳川時代初期の傑作であって、この時代のものは全国的に少なく貴重なものとされている。

彫刻・工芸

狛 犬

大口町余野

昭和三七年三月一〇日 県指定

余野神社本殿の両側に置かれていたものであり、銘に「干時寛永三年祥日寛永二年山田加右衛門、と干時寛永二乙丑天三月祥日」

この鏡は、岩き塚古墳から出土したもので一部が欠失した小型の仿製鏡で、鏡の径は六・八センチ、縁の厚さ三ミリ、文様は乳文帯につづき櫛歯文がある。古墳時代後期のもの、かなりの力をもった被葬者の座右に供せられていたものと考えられる。

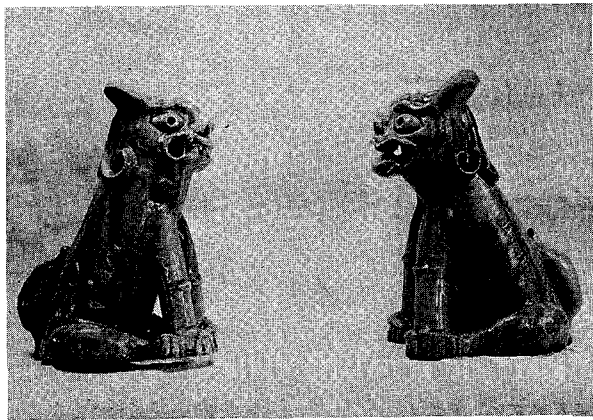


図4-23 狛犬(余野神社蔵)

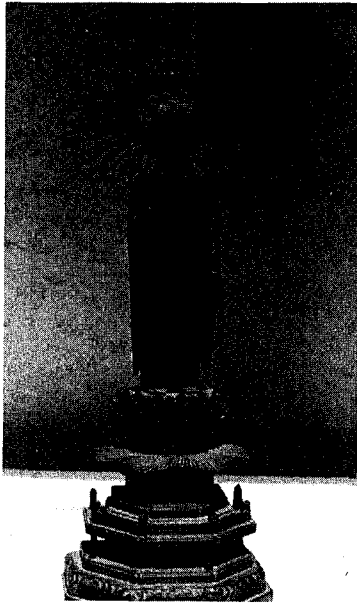


図4-25 木仏尊像(丹羽英一氏蔵)

寄進者中島左兵衛尉は織田信長の臣で大久地城(小口城)陥落ののちは、この地方の行政をおこなった人といわれ、また大屋敷字丸に居城をかまえたといえられている。(天保一二年の大屋敷村絵図に城跡あり。)

大 鈴

小口字城屋敷一ノ一小口神社 昭和四二年五月一六日 町指定

高さ一三・五センチ、胴径四〇・五センチの青銅製で、大久地城(小口城)中に織田家伝来の鈴として安置されてきたものと伝えられている。

現在は、小口神社の宝物として社内に納置されている。

彫刻

木仏尊像 昭和五四年二月二六日 町指定

この仏像は阿弥陀如来像(像高二七センチ)で、優美な立像の面もちは奥深い情愛をたたえ、まことに立派な作風は、室町時代の本願寺信仰の勢いを偲ぶものである。

この仏像には、本願寺教如來人の文禄二年の極めの軸がついており、それにこれを請けた海東郡口野村明照寺門徒某人の名前も記載されている。

銅造千体地藏尊

大口町上小口

昭和四四年六月二三日 県指定

黄銅造千体地藏尊は、その技法などから江戸期の

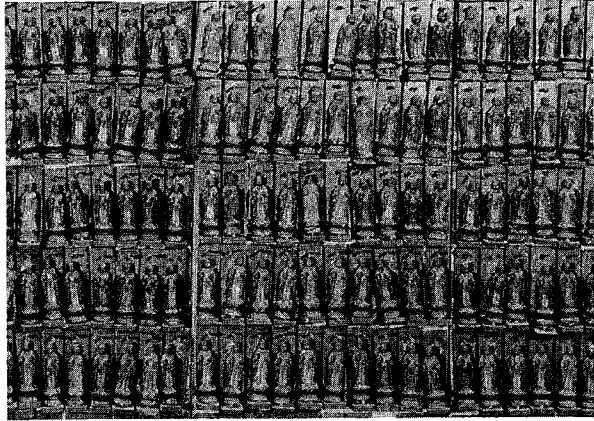


図4-26 銅造千体地藏尊(上小口薬師堂蔵)

月三三日 県指定

聖徳太子像は、銅造で鎌倉時代のものと推定され、太子一六歳の孝養像で、高さは約五センチである。

釈迦如来立像

大口町上小口

聖徳太子像

作と思われ、千体が遺存している例は非常にめずらしく、貴重なものとされている。刻銘に女性や女人講、地藏講などが多く地方民間信仰の盛んであったことを物語っている。像高約五センチ、重さ約三九グラムないし四五グラムである。

この像が安置されている上小口部落の薬師堂には、この他数体の仏像が安置されており、これらはいずれも安和二年(九六九)に建立されたと伝えられる万願寺(現存しない)が兵火で焼失した折、難をまぬがれたものと伝えられている。

大口町

上小口

昭和四

四年六



図4-27 聖徳太子像(上小口薬師堂蔵)

昭和四三年九月一〇日 町指定

釈迦如来立像は、鎌倉時代の作と推定され、高さ約一〇センチの誕生仏でその作風はすぐれ、町内ではもともともふるといわれている。

薬師如来坐像

大口町上小口

昭和四三年九月一〇日 町指定

薬師如来坐像は、木造で、室町時代のもものと推定され、大久地城主（小口城）織田広近が、守り本尊として三体の薬師如来を祀った中の一体と伝えられている。

聖観音坐像

大口町上小口

昭和四三年九月一〇日 町指定

聖観音坐像は、寄木造で室町時代の作といわれ、高さ約三七糎で形姿は傑作である。

鑄鉄地藏菩薩立像

大口町大屋敷

昭和三四年一月一六日 県指定

この像は、大屋敷の長松寺に安置され、県の指定



図4-29 薬師如来坐像(上小口薬師堂蔵)



図4-28 釈迦如来立像(上小口薬師堂蔵)

文化財となっている。高さ約九八センチ、肩幅約二七センチ、裾張二七センチで室町時代の作と推定されている。

また、当寺には、薬師如来、三面大黒天、三十三体観音、弘法大師など多くの木像が祀られている。

この寺は、元禄七年（一六九四）中島郡奥田村（現稲沢市）にあったが、聖僧伝東によってこの地に創建されたといわれている。

なお「薬師如来立像」は、平安末期ごろの作といわれ、町指定（昭和四二年五月一六日）文化財になっている。

○史跡

堀尾吉晴氏邸跡

大口町豊田

昭和四八年一〇月五日 町指定

五条川に沿って、豊田の氏神八剣社が祀られているが、境内に松江城主堀尾吉晴累代の邸跡がある。

吉晴は尾張の名族に生まれ、鎌倉時代の末期管領



図4-31 鑄鉄地藏菩薩立像(大屋敷長松寺蔵)



図4-30 聖観音坐像(上小口薬師堂蔵)

斯波氏に仕えた。戦国の時代には織田、豊臣の臣となつて多くの功をたて、小田原の戦のち浜松一三万石、また関ヶ原の役ののち松江にて二三万石を領した。現在、邸跡は僅かその跡を残すのみである。

大正一五年一〇月、県が邸跡の標碑をたて、これを讃えた。

○天然記念物

小口神社の山柿

大口町中小口

昭和五二年八月七日 町指定

老樹であるが、樹勢は旺盛で毎年多くの実をつけ多数の枝が斜に下垂し、その樹形は優美である。地元では神木として珍重している。樹高約一五米、根圍約三米、枝張東西約一三米、南北約一〇米あり、平野部でこれだけの大樹はめずらしい。

なお、この「小口神社」は、古書延喜式神名帳に記され式内社として後世に伝えられ、また、尾張本國帳には「從三位小口天神」と記され、町内で現



図4-33 天然記念樹「マメナシ」



図4-32 堀尾吉晴邸趾

存する神社の中でもっとも古い神社と考えられる。

天神社のマメナシ

大口町秋田

昭和五一年八月一〇日 町指定

秋田長桜部落にある天神社境内の樹木で、高さ約

一〇米、根囲約五〇センチ、枝張約六米ほどである。

この樹種は、かつては、濃尾平野に広く野生して

いたが、今日では数少ないといわれる。花は白色で、

実は指頭大、味はやや酸味をもっている。別名「い

んなし」「いぬなし」ともよばれている。

また、この天神社には往昔より神事として「湯の花」の儀式が行われている。

この儀式は秋の豊年祭（秋祭）に行われ、昔の形態をそのまま伝え、この地方ではめずらしい神事であり、町指定（昭和五〇年六月二日）になっている。

第二節 遺跡・名所

町内には神社・寺院・城・邸宅・塚などに関する古跡が多くあったといわれるが、大久地城（小口城）跡・堀尾邸跡など一、二のほかは、いづれもこれを実証するような史料がまったく見当たらない。

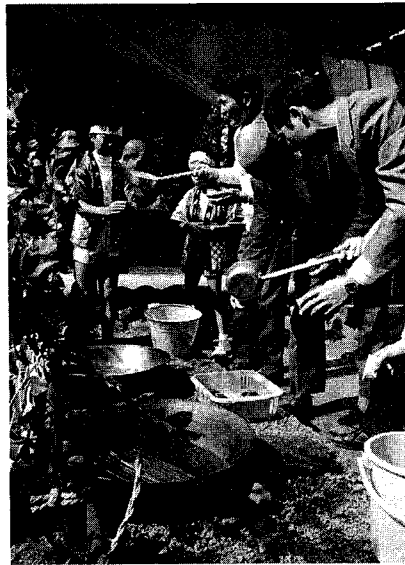


図4-34

天神社（長桜）に伝わる「湯立て」の神事